

第2次熊谷市環境基本計画（案）に対する意見及び市の考え方

1 意見募集期間

平成29年11月24日（金曜日）から 同年12月20日（水曜日）まで

2 意見の提出者数及び意見の件数

提出者数 2名

意見の件数 12件

3 意見の概要及び市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
第2章 2 地球環境 P25 本文最下行	温室効果ガス削減のためのあらゆる手段とは、どのようなものを想定しているか。 熊谷市単独で実施できないものはどうするのか。	「環境目標Ⅲ」に掲げている施策を中心に、低炭素社会を推進することを想定しています。 国・県・市は、それぞれ低炭素社会を推進しており、当面は各が施策を強化していくものと考えています。 現在、市で実施している施策は、主に家庭等への支援をすることによる対策が中心となっていますが、それらの積み重ねを大切に進めていきたいと考えています。 支援の内容は、各種補助金による再生可能エネルギーの利用推進や省エネ・創エネ機器等の普及推進になります。今後も新たな省エネ設備等への助成を検討してまいります。
第2章 3 自然環境 P28 本文4行目	「個体数が減少しているものも確認されています」とあるが、どの動植物がどのくらい減少しているのか。 また、いつ調査されたものか。	平成29年7月に、関係団体へのヒアリングにより確認したものであり、植物では、ヒシ、ウラシマソウ、キツネノカミソリの減少が懸念され、動物では、アズマヒキガエルは、何年も確認されていないとのことです。

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>第2章 3 自然環境</p> <p>P 3 1 本文8～11 行目</p>	<p>平成23年度と平成27年度とで、ムサシトミヨが、約10分の1に減った原因をよく分析してほしい。</p>	<p>減少した原因は、専門家の意見も交え、ムサシトミヨ保全推進協議会で調査中です。水草の繁茂状況や外敵が増えていることが主な要因と考えていますが、自然の生物であるため、原因の特定には時間を要します。</p> <p>個体数調査は、生息域に大変な負担がかかることから、頻繁には実施することはできませんが、小規模な調査の実施を検討しています。</p> <p>現在は、外敵駆除を行うとともに、水草の繁茂状況を注視しています。</p>
<p>第3章 2 将来の環境像</p> <p>P 5 9</p>	<p>熊谷市の将来の環境像の具体的なビジョンを明確にする必要があると考える。</p> <p>現在の熊谷を将来的に、美しい川が流れる緑豊かなきれいな街にするためには、具体的な施策が必要である。</p> <p>例えば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 荒川、利根川の水を利用した水路の整備 2) 水路の水を利用した緑豊かな自然護岸の整備 3) 水路(水車)を利用した再生エネルギーのコンパクトシティなど 	<p>「環境目標Ⅰ～Ⅳ」に掲げる施策を、将来的に目標とする街づくりのための具体的な施策と考えています。</p> <p>いただいたご意見と合致する施策も掲げておりますが、現時点では実施が困難なものもありますので、今後の参考とさせていただきます。</p>

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>第3章 3 環境目標</p> <p>P60</p>	<p>将来的に目標とする街づくりのための具体的な施策が必要と考える。</p> <p>例えば10年後に熊谷市を具体的にどのような街とするか、そのために具体的に実施する施策の詳細を設定し、スケジューリングする必要がある。</p> <p>例えば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) クリーンエネルギーを公共交通に用いたコンパクトシティ 2) リサイクルシティ熊谷 3) 荒川、利根川の河川敷を利用したアピール可能な環境都市 4) 家族が1日楽しめる日本一の広さを持つビオトープ（ホタル、ムサシトミヨの保護） <p>など</p>	<p>「環境目標Ⅰ～Ⅳ」に掲げる施策を、将来的に目標とする街づくりのための具体的な施策と考えています。</p> <p>いただいたご意見と合致する施策も掲げておりますが、現時点では実施が困難なものもありますので、今後の参考とさせていただきます。</p>
<p>第4章 施策の体系</p> <p>P63 基本施策</p>	<p>第2次計画で新たに追加した施策がないように思われる。</p>	<p>環境の課題は、恒久的、普遍的なものであり、基本施策については、大きな変化はないと考えています。</p> <p>平成25年度に行った中間見直しでは、基本施策に「放射性物質対策」を追加しており、今後も必要に応じ加除を行ってまいります。</p>

該当箇所	意見の概要	市の考え方
第5章 環境目標 I P 7 1 ごみの資源化 の推進	プラスチック製容器包装廃棄物の回収をお願いしたい。	プラスチック製容器包装廃棄物の回収については、中間処理施設の保管場所や処理設備の問題及び大里広域市町村圏組合を構成する市町の収集運搬費用の問題等多くの課題があることから、費用対効果をふまえつつ慎重に検討してまいります。
第5章 環境目標 I P 7 1 ごみの資源化 の推進	段ボールコンポストを熊谷市の補助金の対象になるようにしてほしい。	ダンボールコンポストの購入費用に対する補助金については、効果を見極めながら検討をしてまいります。
第5章 環境目標Ⅲ P 9 1 施策② 緑地 の整備	トラストや県民の森のように制度として緑地を確保する仕組みを検討してほしい。	緑地の保全や緑化の推進については、「熊谷市緑の基本計画」の所管課である公園緑地課等と協力して検討してまいります。
第5章 環境目標Ⅳ P 9 4 資源を大切に する行動の啓 発	3 R (リデュース・リユース・リサイクル)運動の中でも重要性の高い2 R (リデュース・リユース)の文言を強調して入れてほしい。	市では、循環型社会の構築のため、3 R (リデュース・リユース・リサイクル) 運動から5 R (リフューズ・リデュース・リユース・リペア・リサイクル) 運動へ活動を強化してまいります。 市としては、5 R運動の推進を行ってまいりますので、2 R運動に限定した記述をすることはいたしません。

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>第5章 環境目標Ⅳ</p> <p>P 9 6 環境活動リーダーの育成</p>	<p>環境活動リーダーの育成とは、具体的には、どのような内容を想定しているのか。</p>	<p>ムサシトミヨ生息域にある小中学校では、ムサシトミヨの繁殖活動を行っており、このことも環境活動の担い手を育成するための一環と考えています。</p> <p>環境活動の中心となる人材の育成のためには、環境に興味のない方にも関心を持っていただき、また、活動に参加し楽しさを伝えることを継続してもらうことがアプローチの一步だと考えています。そのきっかけづくりとして、環境活動団体と市民のニーズがマッチする広報活動を行い、住民参加の後押しとなるような多面的な情報発信を行ってまいります。</p>
<p>第7章 計画の推進体制</p> <p>P 1 1 0</p>	<p>第1次計画には、推進体制として「環境推進協議会」を設置するとあったが、削除した理由は何か。</p>	<p>環境行政に関しては、各関係団体等と協議する必要があります。</p> <p>環境全般であれば、環境審議会、温暖化対策であれば「温暖化対策推進協議会」、ムサシトミヨの保護であれば「ムサシトミヨをまもる会」というように、市民や事業者がメンバーとなった協議会や団体等と協議しております。</p> <p>前計画にあった協議会を開催したことはなく、前述のような協議の上で施策を実施してきた経緯があることから、新たに協議会を設置することとは見送った次第です。</p>

※意見の趣旨等を読み取れたものを記載しています。